

始



工場資料第四輯
大正六年四月

工場法規ニ關スル質疑回答

農商務省商工局

326-270



伺出ア
ヲ輯録
セルモノナリ

大正六年四月

凡例

本書ハ工場法規ノ疑義ニ付地方廳其ノ他ヨリ

タルニ對シ其ノ都度回答シタルモノ

農商務省商工局

寄贈本

大正
7 10 3
寄贈

頁行	目次	本文
二、一	水銀ニ用ナル	八、一二
二、三	乾燥乾燥	八、一三
八、一四	作業主	九、一四
一四、欄外	金屬ノ熔融精煉	九、一四
一六、同	角又ハ貝殻ノ乾燥研磨	一六、同
一六、二	旋盤業	一六、二
一七、欄外	器械物絲製造業粉	一七、欄外
一七、三	包含セテ	一七、三
一九、二	經ハタリ	一九、二
二〇、五	第七條	二〇、五
二六、九	接觸等ノ原因	二六、九
二七、八七九	扶助金	二七、八七九
三〇、七	一月分ナル	三〇、七
三四、三	警察署長	三四、三
三四、六	無償交付	三四、六
八、職工徒弟	又ハ職工徒弟	八、職工徒弟
三四、一二	自身ノミニ對スル	三四、一二

目次

第一 工場

- 一 工場ノ意義及範圍 二—四發電所變電所開閉所 五鐵道車輛修繕工場 六石材採掘場 七繭乾燥場 八藥品化粧品包裝工場 九捕鯨事業場及鱈漁業場 一〇生茶製造場 一一令第一條工場ト職工數 一二—一五清酒醬油製造工場 一六木絲織工場 一七卷鉛筆工場及經木ノ意義 一八工場ノ内部的分割 一九徒弟ノミ從業スル工場 二〇官立工場ノ意義

第二 職工

- 一 職工ノ意義及範圍 二職工ト人夫トノ區別 三請負人ノ供給スル人夫 四請負人カ工業主ノ工場内ニテ使用スル職工 五運搬仲仕 六製材運搬人 七新聞紙運搬人 八船内掃除夫 九カンカン蟲 一〇製材委託者ノ職工 一一電線路ノ保守 一二臨時工 一三—一四補助工 一五履物商店ニ於テ履物ニ加工スル雇人 一六—一七家族

第三 危險有害工場

目次

一

一—三金屬ノ熔融又ハ精煉 四水銀ニ用フル計器ノ製造 五火藥爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱 六塗料又ハ顔料ノ製造 七鹽素瓦斯ヲ用ユル事業 八—九金屬、骨角又ハ貝殼ノ乾燥乾磨

第四 就業時間……………一六

一—二器械生絲製造ノ業務 三—六織物ノ業務 七編物ノ業務 八—九就業時間ノ意義 一〇—一一避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合 一二臨時必要アル場合 一三—一六季節ニ依リ繁忙ナル事業

第五 休日及休憩時間……………二二

一法第七條ノ職工ノ範圍 二三組交替ト休日 三休日ノ前月繰上 四連續休業

第六 就業制限……………二四

一電動機ノ取扱 二—三鋸機ニ木材ヲ送給スル業務 四硝子業ノ型押、玉取及玉吹

第七 扶助……………二五

一業務上ノ疾病ノ種類 二傳染病ト業務上ノ疾病 三—五保險ト扶助 六施行前ヨリ業務上ノ疾病ニ罹レル者ノ扶助 七休業扶助料 八檢診費用ノ負擔者

第八 歸郷旅費……………二九

一歸郷旅費ノ意義 二工業主ノ都合ニ依ル解雇

第九 賃金ノ支拂、貯蓄金、違約金及損害賠償額ノ豫定……………二九

一—五賃金ノ支拂 六—七貯蓄金 八違約金 九—一〇損害賠償額ノ豫定

第一〇 雜……………三三

一職工名簿 二負傷疾病月報 三當該官吏 四戸籍證明

工場法規ニ關スル質疑回答

第一 工場

工場ノ意
義及範圍

一 工場法規ニ所謂工場ノ意義如何

答 工場法規ニ所謂工場ノ意義ニ關シテハ適確ナル定義ヲ下スコト到底困難ナリ箇々ノ場合ニ於テ各種ノ資料ト四圍ノ事情トヲ參酌シテ決定スルノ外ナキモ大體工場トハ職工ヲ使用シテ製造(原料ト名稱ヲ異ニスル)若ハ加工(原料ト名稱ヲ異ニセサルモノ之ヲ變)又ハ仕上ケ、仕別ケ、包裝、荷造(既ニ製物品ヲ製作スルコト)等ノ作業ヲ或期間ニ涉リ繼續シテ爲スヲ目的トスル一定ノ場所ヲ謂フ(發電、變電及蓄電所ハ直ニ此ノ工場ナルヤ否ヤ疑ハシキモノニ付工場ト工場ニ非サルモノトヲ區別シタル事例左ノ如シ)

(甲) 工場ト認ムヘキモノ

(一) 船渠及浮船渠

(二) 襪襪、紙、屑絲、屑繭ノ選別所

(乙) 工場ト認ムヘカラサルモノ

第一 工場

- (一) 建築場但シ大建築ヲ爲ス場合ニ於テ長期ニ涉リ一定ノ設備ノ下ニ材料其ノ他ニ付製造加工ヲ爲ストキハ其ノ場所ニ限リ又ハ建築場全體ヲ通シテ工場ト認ムル場合アルヘシ
- (二) 海岸其ノ他ノ場所ニ於ケル露天ノ和船建造場但書前項ニ準ス
- (三) 土石ノ採掘場
- (四) 獨立セル瓦斯又ハ石油ノ貯藏場
- (五) 養蠶所又ハ蠶種製造所
- (六) 屠獸場
- (七) 鯨船
- (八) 浚渫船
- (九) 商店其ノ他ニ附屬セル荷造場但シ工場ニ附屬セルモノハ工場ノ一部トス
- (一〇) 監獄ノ勞役場、養育院又ハ精神病院其ノ他特殊病院ニ於ケル作業場
- (一一) 學校及官公立試驗場ニ於ケル作業場
- (一二) 河原又ハ草野等ニ於ケル晒場但シ工場ニ接續シ又ハ之ニ附屬セルモノハ工場ノ一部ト認ムルコトアルヘシ
- (一三) 組合員ノミノ使用スル生産組合ノ作業場

二 電氣事業用發電所、變電所、開閉所ハ工場法規ノ適用ヲ受ケルヤ

答 電氣事業用發電所、變電所、開閉所ハ常時十五人以上ノ職工ヲ使用スル場合ニ於テハ工場法ノ適用ヲ受ケ

三 電氣事業會社ノ支配ノ下ニ縣ノ内外ニ涉リテ相距ル數里ノ位置ニ數箇所ノ發電所アリ各所專屬ノ職工ヲ各別ニ數フルトキハ十五人未滿ナルモ合計スルトキハ十五人以上トナル斯カル場合ニ於テハ各發電所ノ職工ヲ一括シテ工場法ヲ適用スヘキヤ

答 例示ノ場合ニハ各別ニ工場法ノ適否ヲ決スヘキモノトス

四 電氣爐應用ノ「カルシウムカーバイト」製造工場アリ破碎ト荷造人夫共職工十六人ヲ使用シ工場法ヲ適用スヘキハ疑ナキ所ナルカ右工場ハ電燈用發電所ノ副業トシテ創始シタルモノナリシニ他ニ第二ノ發電所ヲ設ケタル以來第一發電所ハ平時豫備發電所トナリ且「カーバイト」製造擴大シタルヨリ主トシテ該工場ニ送電シツツアリ而シテ右發電所ハ同一構内ニシテ接近セリ主任技手一名外六名ノ職工ヲ有ス右ハ發電所ヲモ總括シテ工場法ヲ適用スヘキヤ

答 見解ノ通

五 私設鐵道會社ニ於テ其ノ事業ニ使用スル機關車其ノ他ノ車輛類ヲ修繕スル爲特定ノ作業場ニ於テ常時十五人以上ノ職工ヲ使用就業セシムルトキハ工場法第一條第一項第一號ニ該當スルモノト

石材採掘場

認め差支ナキヤ
答 見解ノ通

六 石材採掘場ニ於テ採掘ノ際粗雜ナリト雖周圍五分乃至一寸位ヲ削リテ一定ノ寸法ヲ有スル立方形ノモノトシ他ヘ搬出シ需要ニ供スルモノアリ此ノ如ク採掘ト同時ニ多少ノ加工ヲ爲ス場合ニハ之ニ工場法ヲ適用スヘキヤ

繭乾燥場

七 繭ノ乾燥場ハ工場ナリヤ
答 例示ノ石材採掘場ハ主トシテ採掘ヲ爲スモノト認めラル、ニ付工場法ヲ適用スル限ニ非ス

八 藥品又ハ化粧品ノ小分ケヲ爲スカ爲獨立シタル工場ヲ有シ數種ノ藥品又ハ化粧品ヲ袋入レ若ハ場詰トシ之ヲ包裝シ標紙ノ貼付及裝飾ヲ施スコトヲ專業トスル者常時職工十五人以上ヲ使用スルトキハ工場法第一條第一項第一號ニ該當スル工場ト解スヘキヤ

捕鯨事業場
鯨油製造場

九 漁獲物處理ニ關スル捕鯨事業場、鯨漁業場ハ工場法ノ適用ヲ受クヘキヤ
答 捕鯨事業場ニシテ製油所、鹽藏所等ノ工場的設備ヲ有スルモノハ工場法ノ適用ヲ受ケ鯨漁業場トキハ工場法第一條第一項第一號ニ該當スル工場ト解スヘキヤ
答 見解ノ通

生茶製造場

一〇 生茶製造場ハ工場ナリヤ
場ニシテ粕、採油其ノ他ノ製造ヲ爲スモ全然露天ニシテ柵圍等ノ設備ナキ場合ニ於テハ工場法ノ適用ナシ

一一 工場法施行令第一條ハ工場法第一條第一項ニ依ル適用除外ノ規定ニシテ同第一條但書ノ場合モ使用職工十五人以上ノ工場ヲ前提トスルモノト解セルル從テ同條列記ノ事業ノミヲ營ム工場ニシテ原動力ヲ用フル工場ト雖使用職工十五人ニ滿タサルトキハ工場法ノ適用ナキモノト解スヘキヤ將又原動機ヲ用フル工場ハ使用職工十五人ニ滿タサル場合ト雖工場法ノ適用ヲ受クヘキモノト解スヘキヤ

令第一條
工場職
工數

一二 醬油製造工場ニ於テ醬油製造職工ノ外ニ容器トシテ樽ヲ製造スル職工ヲ常時使用スルモノアリ右兩者ヲ合シ其ノ職工十五人以上ニ達スル場合ハ原動機ヲ使用セサルモ法ノ適用ヲ受クヘキヤ
答 工場法施行令第一條ニ依リテ工場法ノ適用ヲ除外セラルヘキモノハ同條掲記事業ノミヲ營ム場合ナルヲ以テ醬油製造工場ニ於テ併テ樽ノ製造ヲ爲ス場合ニ在リテハ兩者ヲ合シ常時使用ス

清酒醬油
製造工場

ル職工十五人以上ニ達スルトキハ法ノ適用アリ

一三 前號醬油製造ノミノ業務ニ非ストシテ法ノ適用ヲ受クルモノトセハ樽ノ製造工場ヲ別區劃ニ移シタル場合ニ於テモ尙ホ同一工業主ノ管理ニ屬スルトキハ兩者ヲ合シテ法ノ適用ヲ受クヘキヤ

答 醬油製造ノ業務ト樽製造ノ業務トカ全然獨立セル工場ニ於テ營マル、場合ニ在リテハ法ノ適用ハ各別ニ之ヲ決ス

一四 醬油又ハ清酒ノ製造業者ニシテ毎年仕込時期ニ於テ二箇月或ハ三箇月間職工十五人以上ヲ使用シ且其ノ期間原動機ヲ使用スルモノアリ此等ハ其ノ期間中ノミ常時職工十五人以上使用スルモノトシテ法ノ適用ヲ受クヘキヤ

答 醬油又ハ清酒製造業ノ如キ業務ノ性質上其ノ常態ニ於テ十五人以上ヲ使用シ且原動機ヲ用キル期間アルトキハ周年工場法ノ適用ヲ受クヘキモノトス

一五 酒造業者ニ於テ精米作業ノ一部ニ限リ二三馬力ノ電動機及職工二三名ヲ使用シ其ノ精米所カ醸造作業場ト十數間又ハ國縣道ヲ隔テ、存在セル場合ニ於テハ同一工場ト看做シ使用職工十五人以上タルニ於テハ之ニ工場法ヲ適用スヘキヤ

答 二以上ノ作業場ノ距離著シク大ナルトキハ之ヲ同一工場ト看做スハ妥當ヲ缺ク場合アルヘシ然レトモ單ニ國道ヲ隔テ居ルカ如キハ同一工場ト看ルヘキ場合アルヘシ而シテ本問題ノ如キハ

木絲織工場

卷鉛筆製造工場及經木意義

工場ノ内部分割

徒弟ノミ從業スル工場

各箇ノ場合ニ付四圍ノ事情ヲ參酌シ適用上公正ヲ維持スルコトニ注意シ決定スルノ外ナシ

一六 木絲織又ハ木片織ト稱シ木絲ヲ以テ經緯絲一本宛互ニ組合ス平織組織ニシテ手織機械ヲ以テ織成スルモノアリ右ハ織物ナリヤ或ハ經木ノ手工品ナリヤ

答 木絲織ハ工場法規ニ所謂織物及經木ノ手工品ニ包含セス從テ常時使用スル職工十五人ニ達スルトキハ工場法ノ適用アリ

一七 薄ク削リタル幅六寸長七寸位ノ木ヲ用キテ鉛筆ノ心ニ卷キ付ケ鉛筆ヲ製造スル工場アリ斯ル業務ハ工場法施行令第一條中ノ「經木ノ手工品」ノ製造ヲ爲ス業務ト認ムヘキヤ尙工場法施行令中「經木」ノ意義如何

答 經木ノ手工品ニ非ス經木トハ木材ヲ鉋ニテ薄ク削リタルモノヲ謂フ

一八 織物業主ニシテ其ノ事業ノ一部ヲ他ヘ讓渡シ同時ニ其ノ職工ノ一部モ使用主體ヲ異ニスルニ至リタルノ故ヲ以テ爾後同工場ハ工場法ノ適用ヲ受ケサルモノナリト主張シ從前通り同工場ニ於テ作業ヲ繼續スルモノアリ此等ノ場合ニ於テ使用職工十五人以上集合同一作業ニ從事スル場合ナルニ於テハ其ノ使用主體ノ如何ニ拘ラス工場法ノ適用ヲ受クルモノト解釋シ支障ナキヤ

答 職工ハ之ヲ通算シテ法ノ適用ヲ決定シ工業主ハ各別ニ法律上ノ義務ヲ負フヘキモノナリ

一九 工場法第一條第一項第一號ニ依レハ徒弟ノミ十五人以上使用スル工場ニ對シテハ法ヲ適用ス

ヘキモノニ非ス又同條同項第二號ニ該當スル工場ハ徒弟(工業主又は家族カ作業ニ從事ス)ノミ使用スルモ法ノ適用ヲ受クヘキモノト解スヘキヤ

答 何レノ場合ニモ工場法ノ適用ナシ

二〇 官立工場ノ意義如何

答 官立工場トハ官制上一定ノ工業的作業ヲ行フ所ハ勿論官廳カ便宜ノ爲ニ其ノ構内ニ設置シタル印刷所等ノ作業場ヲモ包含ス

第二 職工

一 工場法規ニ所謂職工ノ意義如何

答 工場法規ニ所謂職工ノ意義ニ關シテハ適確ナル定義ヲ下スコト到底困難ナリ箇々ノ場合ニ於テ各種ノ資料ト四圍ノ事情トヲ參酌シテ決定スルノ外ナキモ大體ノ標準ヲ示ストキハ職工トハ主トシテ作業場内ニ在リテ工場ノ目的トスル作業ノ本體タル業務ニ付勞役ニ從事スル者及直接ニ其ノ業務ヲ助成スル爲勞役ニ從事スル者ヲ謂フ即チ工場ノ主タル作業ハ勿論之ニ關係アル例ヘハ場内運搬、工場設備ノ手入修覆等ニ從事スル者ヲ包含ス
職工ナリヤ否ヤ疑ハシキ者ニ付職工ト職工ニ非サル者トヲ區別シタル事例左ノ如シ

(甲) 職工ト認ムヘキモノ

(一) 勞役ヲ直接ニ指揮監督スル工長、伍長、職工長ノ類

(二) 工場建物ノ修繕ノ爲ニ常時使用シ居ル大工又ハ左官職

(三) 臨時職工、日傭職工

(乙) 職工ト認ムヘカラサルモノ

(一) 專ラ作業場外ニ在リテ運搬ニ從事スル人夫、便所、寄宿舎ノ掃除夫及賄方

(二) 門衛、給仕

(三) 生絲工場ニ於ケル教婦

二 職工ト人夫トノ區別如何

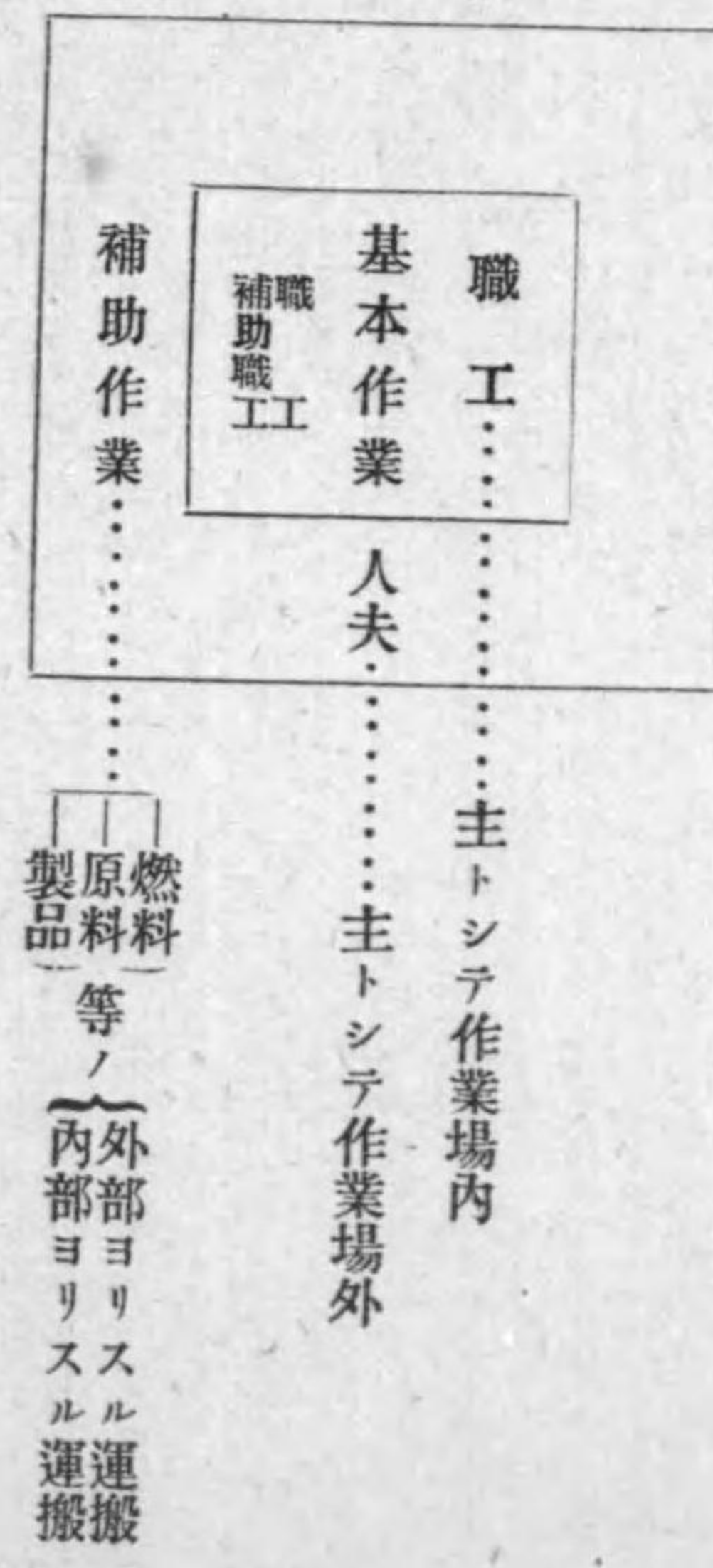
答 (一) 職工ト人夫トノ別ハ其ノ操ル所ノ業務ヲ以テ標準トス即チ主トシテ作業場内ニ在リテ當該工場ノ目的トスル作業ノ本體タル業務ニ付勞役ニ從事スル者及其ノ業務ヲ助成スル爲勞役ニ從事スル者ヲ職工トシ主トシテ作業場外ニ在リテ間接ノ補助作業ニ從事スル者ヲ人夫トス

(二) 前段ニ依リ難キトキハ作業主若ハ被傭者ノ意思ヲ參酌シテ之ヲ分別ス
尙ホ工場ノ業務ニ從事スル者ニシテ其ノ操業カ性質上職工ノ業務タル以上ハ雇傭關係カ直接

工場法規ニ關スル質疑回答

工業主ト職工トノ間ニ存スルト或ハ職工供給請負者、事業請負者等ノ介在スル場合トヲ問ハス一切其ノ工業主ノ使用スル職工トシテ取扱フ

(参考)



請負人ノ供給スル人夫

三 會社トノ契約ニ基キ特定ノ請負人ニ於テ日々所要人員ヲ雇入レ工場内ニ於テ原料、石炭、製品類ヲ運搬スル業務ニ就カシムル場合ニ在リテハ其ノ就業者ハ之ヲ會社ニ於テ使用スル職工ト認メ職工名簿ニ記載スヘキヤ

答 工業主トノ契約ニ基キ特定ノ請負人ニ於テ日々所要人員ヲ使用シ作業場外(工場構外ハ勿論工場構内ト雖)ニ於テ原料、石炭、製品類ヲ運搬スル業務ニ就カシムル場合ニ在リテハ其ノ就業者ハ職工ニ非ス

請負人ノ工業主ノ工場内ニ於テ使用スル職工

業者ハ職工ニ非ス

四 製材工場ノ職工長カ抵制ノ仕事ヲ工業主ヨリ請負ニテ引受ケ其ノ工場ノ職工ト他ヨリ別ニ雇入レタル職工トヲ使用シテ作業ニ従事スル者アリ而シテ此ノ場合其ノ事業ノ損益ハ請負人タル職工長ノ責任ト爲シ職工長ト工業主トハ全ク別箇ノモノナリ兩者何レニ工場法ヲ適用スヘキヤ

答 被傭者全部ヲ工業主ノ職工トシテ取扱ヒ之ニ工場法ヲ適用スヘキモノトス(第二項参照)

運搬仲仕

五 鐵工場ニ於テ製品ヲ運搬スル際工場内ヨリ荷車等ニ積込迄ノ運搬及荷造ヲ爲シ停車場ニテ其ノ荷卸シ貨車積ヲ爲スヲ以テ主業トシ之ヲ運搬仲仕ト稱スルモ場合ニ依リテハ工場内ニ於ケル仕事ヲモ爲スコトアリテ其ノ仕事ハ工場ノ内外相半スルモノ、如シ、如何ニ之ヲ取扱フヘキヤ

答 専ラ運搬及荷積ヲ爲ス運搬仲仕ハ職工ニ非サルモ作業場内ニ於ケル勞役ニモ従事スル場合ハ其ノ仕事ノ内容如何ニ依リ職工ト認ムヘキ場合アルヘシ

運搬人

六 自己所有ノ山林内ニ於テ製材所ヲ有シ伐木シタルモノヲ數里間運搬シ製材ヲ行フ工業主アリ此ノ材木運搬ニ従事スル勞働者ハ其ノ工業ノ目的トスル作業ノ一部ニ使役セラル、ヲ以テ職工トシテ取扱フヘキヤ

答 山林内ニ於ケル材木運搬ノ業務ニノミ従事スル者ハ職工ニ非ス

新聞紙運搬人

七 新聞社等ニ於テ苦學生カ新聞紙ヲ賣捌店ニ運搬スル爲印刷場構内ノ荷造場ニ運搬シ之ヲ包裝シ

テ直ニ賣捌店ニ運搬スル者及紡績會社等ニ於テ甲乙倉庫間ニ運搬スルコトヲ專業トスル者ノ如キハ職工ト看做スヘキヤ

答 職工ニ非ス

船内掃除夫

八 入渠船舶ノ船内掃除ノ爲船渠會社ノ臨時傭使スル人夫ハ職工トシテ取扱フヘキヤ

答 單ニ船内ニ於テ注水、雜巾掛ケ等ノ如キ普通掃除ノ業務ノミヲ爲ス者ハ職工ニ非ス然レトモ苟モ機械其ノ他「パイプ」器具等ノ取附ケ取外シ其ノ他之ニ準スヘキ業務ヲ爲ス者ハ職工トス

カンカン

九 入渠船舶ノ汽罐掃除ノ爲船渠會社ノ臨時傭使スル人夫(俗ニ「カンカン」蟲ト稱スル少年)ハ職工トシテ取扱フヘキヤ

答 職工トシテ取扱フヘキモノトス

製材委託者ノ職工

一〇 自己ノ材木ヲ製材工場ニ委託シテ製材ヲ爲ス者其ノ出來ノ後製材工場内ニ十五人以上ノ職工ヲ率キ來リテ結束ノミヲ自ラ爲ス場合ニ於テ此等ノ職工ハ如何ニ取扱フヘキヤ

答 製材委託者ノ職工ト雖常時作業場内ニ在リテ勞役ニ服スル場合ハ製材所ノ職工トシテ取扱フヘク然ラサル場合ニハ製材所ノ職工トシテ取扱フニ及ハス

電線路ノ保守

一一 電線路ノ保守ハ工場法規ノ適用ヲ受クルヤ

答 工場外ニ於テ電線路ノ保守ノミニ從事スル者ハ職工ニ非ス

臨時工

一二 生絲工場ニ於ケル繭ノ乾燥室ハ工場ノ一部ナルヲ以テ乾燥ノ爲臨時雇入ル、勞務者ハ職工トシテ取扱フヘキヤ

答 見解ノ通

補助工

一三 妻楊子製造工場ニ於テ其ノ女工中自己作業ノ補助トシテ十二歳前後ノ幼者ヲ同伴シ來リ其ノ傍ニ於テ簡易ナル楊子揃ヲ爲サシムルモノアリ而シテ右幼者ハ獨立シテ就業スルニ非サルヲ以テ工業主トノ間ニ特別ノ雇傭契約ナシ右ノ幼者ハ之ヲ職工トシテ取扱フヘキヤ(第三項ノ參照)

答 見解ノ通

履物商店ニ於テ雇入スル加工人

一四 製麵工場ニ於テ請負ヲ以テ素麵ノ束裝(紙片ヲ以テ素麵ヲ小束ニ造ル輕易ナル仕事)ヲ爲ス職工ニシテ其ノ子妹(十歳以上若ハ放課後工場ニ來ル)ヲ同行シ自己ノ仕事ヲ手傳ハシムル者アリ如何ニ取扱フヘキヤ

答 職工カ十二歳未滿ノ子供ヲ同行シ自己ノ仕事ヲ手傳ハシムルコトハ禁スヘキモノトス本件ニ關シテハ大正五年農商務省訓令第十號第二條ヲ參照スヘシ

一五 履物商店ニ於テ別ニ同一構内ニ木履製作工場ヲ設ケ同工場ニテハ主トシテ履物臺ヲ作り其ノ一部ヲ自家商店ニ於ケル雇人ヲシテ加工セシメ履物トシテ販賣スルモノアリ右商店ニ於ケル雇人モ亦同一工場ノ職工トシテ取扱フヘキヤ

答 商店ニ於ケル雇人ハ職工ニ非ス

履物商店ニ於ケル雇入スル加工人

第二 職工

一三

工場法規ニ關スル質疑回答

一四

一六 工業主トノ間ニ雇傭關係ノ存在セサルノミナラス工業主ヨリ賃金ノ支拂ヲモ受ケサル工業主ノ家族ハ職工トシテ取扱フヘキヤ

答 例示ノ如キ家族ハ職工ニ非ス

一七 前項家族ハ之ヲ職工トシテ取扱ハサルモノトスルモ其ノ者ニシテ十二歳未満ノ者ナルニ於テハ尙ホ工場法第二條ニ該當シ又十五歳未満ノ者及女子ナルニ於テハ工場法第三條等ニ該當スルモノトシテ取扱フヘキヤ

答 工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ於テ就業スル者ハ假令職工ニ非スト雖其ノ就業ニ付テハ工場法ノ規定ニ依ルヘキモノトス

第三 危険有害工場

金屬ノ熔融精煉

一 工場法施行令第三條中ノ金屬ノ熔融又ハ精煉ニハ鍛冶業ヲ包含スルヤ

答 金屬ノ熔融又ハ精煉ニハ鑄造場ノ如キ金屬ヲ熔融スル業務ヲ行フコトナク單ニ鍛冶業ノミヲ營ムモノハ之ヲ包含セス

二 酸素「アセチリン」瓦斯ヲ應用シテ金屬品ノ熔接又ハ切斷ヲ爲スモノハ工場法施行令第三條中ノ金屬ノ熔融ニ包含スルヤ

答 包含セス

三 活版工場ニ於テ「カステンダマシン」一臺ヲ据ヘ付ケ活字ヲ鑄造シ自家用活字ノ不足ヲ補フカ如キ鑄造専門業ニ非サルモノモ工場法施行令第三條中ノ金屬ノ熔融ヲ爲ス事業ト看做スヘキヤ

答 見解ノ通

四 度量衡器製造業中單ニ水銀ヲ使用シテ木桿ノ目盛ノミヲ爲ス業務ハ工場法施行令第三條中ノ水銀ヲ用キル計器ノ製造ニ包含セサルヤ

答 包含セス

五 火藥及其ノ他ノ物ヲ用キテ煙火ヲ製造スル所ニシテ工場の設備アルトキハ工場法施行令第三條第六號ニ該當スルヤ

答 煙火ノ製造ハ工場法施行令第三條中ノ火工品ノ製造ニ該當ス

六 漆器製造ノ事業ハ工場法施行令第三條中ノ塗料又ハ顔料ノ製造ニ包含スルヤ

答 包含セス

七 工場法施行令第三條中ニ所謂鹽素瓦斯ヲ用キル事業中ニハ漂白粉ヲ包含スルヤ

答 包含セス

八 左ニ掲ル業務ヲ營ム工場ハ工場法施行令第三條中ノ金屬ノ乾燥研磨ヲ營ムモノト看做スヘキヤ

第三 危険有害工場

一五

水銀ヲ用キル計器ノ製造

火藥又ハ火工品又ハ取扱

塗料又ハ顔料ノ製造

鹽素瓦斯ヲ用キル事業

金屬ノ骨

工場法規ニ關スル質疑回答

一六

(一) 單ニ鍛冶ノミヲ營ムモノカ併セテ其ノ製品ヲ鑄其ノ他ノ器具ニテ削磨スルモノ
(二) 仕上鐵工ヲ營ムモノカ旋盤業ノ機械ニテ防熱劑(水、石鹼、油等)ヲ用キス鑄鐵ノ如キモノヲ仕上グル
場合又ハ金剛砂砥石ニテ刃物其ノ他ノ金屬ヲ削磨スルモノ

答 (一) 主トシテ鍛冶業ヲ營ムモノカ其ノ工程ノ一部トシテ鑄其ノ他ノ器具ニテ削磨スル場合ハ

工場法施行令第三條中ニ所謂金屬ノ乾燥研磨ノ事業ニ包含セス

(二) 仕上鐵工ヲ營ムモノカ研磨機等ノ機械ニテ防熱劑(水、石鹼、油等)ヲ用キス鑄鐵ノ如キモノヲ仕
上ケ或ハ金剛砂砥石ニテ刃物其ノ他ノ金屬ヲ削磨スルカ如キ事業ハ工場法施行令第三條中ニ
所謂金屬ノ乾燥研磨ノ事業ニ包含ス

旋盤ニテ切削ニ依リ仕上ケヲ爲スモノニ付テハ防熱劑ヲ用キサル場合ト雖金屬ノ乾燥研磨ニ
包含セス

九 貝卸製造業者中俗ニ「ボールバン」ト稱スル機械ヲ用キテ單ニ卸ノ繰抜ノミヲ爲ス業務ハ工場法
施行令第三條中ノ貝殼ノ乾燥研磨ニ包含スルヤ

答 包含セス

第四 就業時間

一 器械生絲製造ノ業務中ニハ單ニ日本形水車又ハ其ノ他ノ動力ヲ用キテ器械ヲ運轉シ煮繭ニハ汽
罐ノ設備ナク之ニ代フルニ木炭ヲ用キル場合ヲモ包含スルヤ

答 包含セス

二 玉絲製絲及足踏製絲ハ工場法施行規則第三條ノ器械生絲製造ノ業務ノ中ニ包含スルヤ

答 生絲製造業ニシテ作業臺ヲ連結シテ煮繭シ其ノ繰絲用蒸汽ヲ汽罐ヨリ共通ニ供給スルカ如キ
連絡シタル設備ニ依リ蒸汽其ノ他ノ裝置ヲ共用スルモノハ玉絲ニテモ足踏製絲ニテモ工場法施
行規則第三條ノ器械生絲製造ノ業務ノ中ニ包含ス

三 工場法施行規則第三條第二項ノ織物ノ業務中ニハ左ノ業務ヲ包含スルヤ

(一) 織物工場内ニ附設セル染色及漂白工場ニ於ケル業務
(二) 獨立セル染色又ハ精練漂白工場ニ於ケル業務

答 包含セス

四 左記各號ノ場合ニ於ケル繰絲作業ハ工場法施行規則第三條ノ織物ノ業務中ニ包含スルヤ

(一) 織物ト同一工場内ニ於テ其ノ織物ノ準備工程タル繰絲作業
(二) 單獨工場ニ於ケル繰絲作業

答 (一) 包含ス

(二) 包含セス

五 織物ノ第一工程タル絲練及下拵ノミヲ自己ノ工場内ニ於テ作業シ製織ハ出機ニ依リ整經シタル原料ヲ交付シテ製織セシメ居ル工場アリ即チ單ニ自己ノ工場ニ於テハ下拵準備工程ノミナルモ其ノ準備工程ハ製織ノ目的ニ供セラル、モノナルヲ以テ一般織物業ト同一取扱ノ下ニ工場法施行規則第三條ヲ適用シテ差支ナキヤ

答 工場法施行規則第三條ノ適用ニ付テハ絲練及下拵ノミヲ爲スモノハ同條ニ所謂織物ノ業務ト認メ難ク從テ同條ノ適用ナシ

六 工場法施行規則第三條第二項ノ織物中ニハ「リボン」又ハ木綿眞田織、小巾帶、金銀「モール」ノ如キ所謂着尺モノニ非サル織物ヲモ包含スルヤ

答 「リボン」、木綿眞田織、小巾帶、平織金銀「モール」ハ織物ナリ

七 麻眞田、編上靴紐、電話及電燈線ノ「コード」ハ工場法施行規則第三條第二項ニ所謂編物ノ業務ニ包含スルヤ

答 包含セス

八 工場法ニ依リ器械生絲製造及織物、編物ノ業務ニ付テハ十五歳未滿ノ者及女子ト雖一定期間内ニハ一日ニ付就業時間ヲ十四時間迄延長シ得ヘキコトハ工場法第三條及同法施行規則第三條ノ規

編物ノ業務ノ就業時間ノ意義

就業時間ノ意義

定ニ明示シアリ然ルニ斯種事業者中工場法第七條第一項後段ノ規定ヲ楯トシ右十四時間ノ就業時間中最少限度タル一時間ノ休憩時間ヲ與フルヲ以テ法定ノ義務ヲ經ヘタリトナシ右一時間内ニ於テ二度ノ食事其ノ他ノ用辨ヲ爲シ能ハサルヲ理由トシテ更ニ相當ノ休憩時間ヲ追加シ其ノ追加シタル時間ヲ規定ノ十四時間ニ加ヘ即チ始業時ヨリ終業時迄ヲ十四時間以上ニ延長セムトスル者アリ右ハ全ク法規ヲ曲解シタルモノニシテ工場法規ニ違反スルモノト解シ然ル可キヤ

答 工場法第七條ノ休憩時間(食事時間)ハ就業時間中ニ包含スルモノナルヲ以テ器械生絲製造及織物、編物ノ業務ニ於テ十四時間就業セシムル場合ニ於テハ一時間ノ休憩時間内ニ食事其ノ他ノ用辨ヲ爲シ得ストセハ休憩時間ヲ延長スルノ外途ナシ之レカ爲始業時ヨリ終業時迄カ十四時間ヲ超過スルニ於テハ工場法第三條及同法施行規則第三條ノ違反ナリ

九 工場法第七條規定ノ就業時間ハ連續シタル時間ニシテ不可分ノモノナリヤ又ハ分割シ得ヘキヤ

(例示)

(イ) 機械工場ノ就業時間(十四時間)カ連續シタル時間ニシテ分割ヲ許サ、ルモノトスレハ規定ノ休憩一時間ノ外通勤職工カ晝食ノ爲自家ニ往復スルニ一時間ヲ要スル如キ場合ニ在リテハ正味ノ就業時間ハ十二時間トナリ工業主ノ打撃少カラス

(ロ) 就業時間(十四時間)ハ分割ヲ許スモノトスレハ假ニ午前五時ヨリ正午迄ノ間ニ三十分ノ休憩時

工場法規ニ關スル質疑回答

問ヲ設ケ別ニ通勤職工ノ晝食ノ爲ニ要スル一時間ヲ置キ午後一時ヨリ午後八時迄ノ間ニ三十分ノ休憩時間ヲ設ケルトセハ就業時間ハ正味十三時間ニシテ休憩時間ハ午前午後ヲ通シテ一時間ヲ與フルコトトナルヲ以テ規定ニ抵觸セサルカ如ク解セラル

答 例示サレタル工場ノ就業時間ハ之ヲ通算セハ一日十五時間ノ就業トナリ明ニ法規ニ抵觸ス

避クヘカ
ラサル事
由ニ因リ
臨時必要
アル場合

一〇 官公署ノ請負事業ニシテ成功ノ期間ヲ延引スルコト能ハサル事由アルモノハ工場法第七條第二項ノ事由アルモノト認メテ取扱ヒ然ル可キヤ

答 工場法第八條第二項ノ事由アルモノト認メ難シ

一一 歐洲時變ノ關係上軍需品トシテ一定期間内ノ成功ヲ必要トスル製造工業ニ對シテハ工場法第八條第二項ノ事由アルモノト認メテ取扱ヒ然ル可キヤ

答 歐洲時局ノ關係上露國其ノ他ヨリ軍需品ノ注文ヲ受ケ一定量ノ製品ヲ供給スル旨ヲ工場法實施前ニ於テ契約シタル場合ニシテ工場法ニ依ル時間制限ノ結果期日迄ニ製品ノ供給ヲ爲スコト能ハス且ツ機械増設其ノ他ノ方法ニ依リ生産高ヲ増加スルノ途ナキコト明ナル場合ハ工場法第八條第二項ノ事由アルモノト認メテ差支ナシ

臨時必要
アル場合

一二 職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ就業セシムル場合ニ於テ夜業ヲ營ム組ノ保護職工ニ對シテハ臨時必要アリト認ムルトキハ尙ホ工場法第八條第三項ニ依リ就業

時間ヲ二時間以内延長シ得ヘキヤ

答 工場法第八條ニ依リ時間ノ延長ヲ爲スコトヲ得ス

季節ニ依
リ繁忙ナ
ル業務

一三 足袋製造業ハ需要季節ノ關係ヨリ八月ヨリ翌年一月ニ渉ル期間最モ多忙ナリ依テ該事業ヲ工場法第八條第四項ニ所謂季節ニ依リ繁忙ナル業務ト認メ差支ナキヤ

答 工場法第八條第四項ニ所謂季節ニ依リ繁忙ナル業務トハ業務自體カ天候其ノ他自然ノ支配ヲ受ケ或ル季節ニ限り多忙ナルモノ又ハ原料處理ノ關係ヨリ或ル期間繁忙ナル事業例ハ生絲製造業製茶業及果物ノ罐詰ニ關スル業務ヲ謂ヒ單純ナル需要供給ノ關係ヨリ或ル期間繁忙ナルカ如キ業務ヲ包含セス從テ足袋製造ノ業務カ其ノ需要期ノ關係上或ル期間多忙ナリト謂フカ如キハ工場法第八條第四項ニ所謂季節ニ依リ繁忙ナル業務ニ非ス

一四 製蠟工場ニ工場法第八條第四項ヲ適用シテ差支ナキヤ

答 製蠟事業ハ工場法第八條第四項ニ該當スルモノト認メ難シ

一五 工場法第八條第四項中一年ニ付百二十日ヲ超エサル限リトハ曆年ニ依リ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ間ニ於テ合計百二十日ヲ超エサル限リノ義ナリヤ又一定ノ期間中ニ於テ就業時間ヲ延長シ得ヘキ日數トノ比例ヲ示セルモノト解スヘキヤ

答 一定ノ期間ト其ノ期間中ニ於テ就業時間ヲ延長シ得ヘキ日數トノ比例ヲ示セルモノナリ

一六 (一)生絲製造業ニ付テ工場法第八條第四項ノ認可ヲ與フル場合ニハ一年中ノ操業時間(例ヘハ五日ヨリ十二月二十五日ニ至ル三百十四日間)ヲ以テ所謂一定ノ期間ト認定スヘキヤ

(二) 同條同項ニ依ル認可ハ一定ノ期間ニ付テノミ與フヘキモノナリヤ又ハ其ノ期間中延長シ得ヘキ日數ニ對シテモ與フヘキモノナリヤ

(三) 同條同項末段ニ所謂其ノ認可ヲ受ケタル期間トハ前ノ一定ノ期間ヲ指スモノナリヤ又ハ延長シ得ヘキ實日數ヲ指スモノナリヤ

答 (一)生絲製造業ニ付工場法第八條第四項ノ認可ヲ與フル場合ニ於ケル一定ノ期間ハ大體六月ヨリ十月迄ノ間ニ於テ地方ノ狀況ニ依リ其ノ期間ヲ定ムルコト

(二) 同條同項ニ依ル認可ハ一定ノ期間ニ對シテ與フルモノナルモ取扱上トシテハ認可申請書ニ事由、一定ノ期間及延長ヲ爲ス日數等ヲ詳記セシメ該申請ニ對シ認可スルヲ可トス

(三) 前段見解ノ通

第五 休日及休憩時間

法第七條ノ職工ノ範圍

一 工場法第七條第一項中職工ヲ二組ニ分テ交替ニ云々及同條第二項中職工ヲ二組以上ニ分テ云々トアルハ十五歳未滿ノ者及女子ノミヲ謂フモノナリヤ

三組交替ト休日

答 見解ノ通

二 工場法第七條ニ依リ職工ヲ二組ニ分テ交替ニ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クとも四回ノ休業ヲ設クルコト、ナリ居レルカ職工ヲ三組ニ分テ就業セシムル場合ト雖保護職工ニ對シテハ毎月少クとも二回ノ休日ヲ與フルコトヲ要スヘキヤ

答 見解ノ通

休日ノ前月繰上

三 某月末三十一日ハ大祭日ニ相當シ翌月一日亦工場ノ公定休日ナル場合ニ其ノ公定休日ヲ三十一日ニ繰上ケタル場合之ヲ其ノ月ノ公定休日ト認メ得ルヤ

答 質問ハ其ノ月三十一日大祭日ニ相當シタル場合ニ工場ノ公定セル翌月一日ノ休日ヲ繰上ケ翌月ノ休日一回ヲ廢シ得ルカノ趣旨ナルカ如ク解セラル若シ右ノ趣旨ナレハ繰上ケタル休日ハ翌月ノ休日ト認メ難シ

連續休業

四 八月(盆月)ハ十五日十七日ヲ公定休日トシ十六日ハ職工ノ任意休業スル結果實際ニ於テ三日連續休業トナル場合ノ如キ之ヲ以テ其ノ月二回ノ休日トナシ差支ナキヤ

答 差支ナシ但シ事實ニ於テ職工カ十六日ニ於テ任意ニ休業シタル場合ニ限ル

第六 就業制限

電動機ノ取扱

- 一 工場法第九條及之ニ關聯スル同法施行規則第五條第四號ニ依レハ保護職工ヲシテ電動機ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得ストアリ然ルニ左記ノ如キ電動機ノ取扱ハ實際ニ於テ何等ノ危険ナキノミナラス之ヲ禁止スルトキハ新式設備ノ力織機及「リング」精紡機ノ運轉ニ根本的ノ改良ヲ加フルコト、ナリ女工ヲ全部成年男工ニ改ムル如キハ事實不能ノ問題ナリ右ハ如何ニ取扱フヘキヤ
 - (イ)「リング」精紡機一臺毎ニ電動機ヲ取附ケ之ニ依リテ運轉ヤシメ管上ケノ都度電動機ハ五五〇「ボルト」八馬力半ニシテ廻轉中ノ馬力ハ普通四馬力内外ナリ「ハンドル」ハ「エボナイト」ニテ絶縁シ電動機ニハ危険防止ノ装置完備シ取扱上何等ノ危険ナシ
 - (ロ)力織機一臺毎ニ二三〇「ボルト」半馬力ノ電動機ヲ床下ニ備ヘ付ケ「ハンドル」ニ依リテ床下ノ「スウイツチ」ヲ開閉シテ織機ヲ運轉ス而シテ之ニ從事スルモノハ女子ナリ
- 答 右ハ工場法施行規則第五條第四號ニ該當セサルモノトシテ取扱ヒ差支ナシ
- 二 製材工場ニ在リテ俗ニ耳摺ト稱シ十五歳以上ノ女子ヲシテ比較的小形ナル圓鋸ヲ使用シ板ノ兩耳ヲ切斷スル作業ヲ爲サシムルハ工場法施行規則第五條第五號ノ業務ニ該當スルヤ
- 答 製板ニ關シ其ノ兩耳ヲ切斷スル迄ノ作業ハ工場法施行規則第五條第五號ニ包含スルモノトシ

鋸機ニ木材ヲ送給スル業務

硝子業ノ型押玉取及玉吹

第七 扶助

- 一 業務上ノ疾病ノ種類如何
 - 答 左記各號ニ該當スルモノハ之ヲ業務上ノ疾病トシテ取扱然ル可シ
 - (一)砒素、砒素化合物、水銀、水銀化合物、磷、磷含有物、鉛、鉛化合物、チアン水素酸、チアン化合物其ノ他毒性又ハ劇性料品ヲ取扱フ業務ニ於ケル其ノ中毒諸症及業務ノ過程ニ於テ發生シタル毒性又ハ劇性物質ニ因ル中毒諸症
 - (二)業務上使用スル鑄酸、苛性アルカリ、「クロール」、「フルオール」、「フルオール化合物、ク
- 二 業務上ノ疾病ノ種類如何
 - 答 左記各號ニ該當スルモノハ之ヲ業務上ノ疾病トシテ取扱然ル可シ
 - (一)硝子業ノ型押玉取及玉吹
 - (二)業務上ノ疾病ノ種類如何

業務上ノ疾病ノ種類

ローム化合物、テール其ノ他腐蝕性又ハ刺戟性料品ニ因ル腐蝕又ハ潰瘍
 (三)生絲工ノ手指蜂窩織炎、研磨工ノ水疹及業務上使用スル「テール」、「セメント」、「チアン化合物等ニ因ル皮膚濕疹

- (四)業務ニ因ル筋ノ強直、痙攣、斷裂、腱鞘炎、關節炎、脱腸
- (五)高熱物體ノ取扱、刺戟性瓦斯又ハ異物ニ因ル結膜炎其ノ他ノ眼病
- (六)襪履、獸毛、革皮其ノ他古物ヲ取扱フ業務ニ因ル丹毒、炭疽、ペスト、痘瘡
- (七)前各號列記以外ノ疾病ニシテ業務上ノ疾病ト認メラルモノ

二 (一)工場内ノ職工又ハ賄方及人夫等ニ法定傳染病患者若ハ病原菌保有者アリ之カ爲飲食物ハ勿論其ノ他業務ニ使用スル材料又ハ設備ヲ介シ若ハ業務上避クヘカラサル接觸等原因ニ依リ他ノ職工カ同種病毒ニ感染シタル場合ニ於テハ之ヲ業務上ノ疾病ト看做スヘキヤ
 (二)前項若シ之ヲ業務上ノ疾病ト看做ストキハ他ノ慢性傳染病ニシテ感染ノ徑路前項ト同一ニシテ且明ニ之ヲ立證シ得ル場合ハ同シク之ヲ業務上ノ疾病ト解スヘキヤ

答 工場内ニ於テ傳染病(法定ノ傳染病タルト否ト問ハズ)ニ感染シタル職工ヲ業務上ノ疾病ニ罹リタルモノト認ムヘキヤニ付テハ當該職工カ工場内ニ於ケル業務トシテ傳染病毒ニ感染シタル材料ヲ取扱フ場合其ノ他作業カ直接ニ傳染病ノ原因タルコト明ナル場合ハ之ヲ業務上ノ疾病ト認ムヘキモ之カ決定ヲ爲スニハ其ノ實際ノ情況ニ依リ具體的事實ヲ精査シテ判斷スヘキモノニシテ(二)モ亦之ニ準ス

三 工業主カ自ラ保險契約者トナリテ保險料ヲ支拂ヒ職工ヲ被保險者トシテ保險會社ト傷害保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ職工カ負傷シ之ニ對シ保險會社カ保險金額ヲ支拂ヒタルトキハ工業主ハ工場法ニ依リ職工又ハ遺族ニ支拂フ療養費又ハ扶助金額ヨリ右傷害保險金額ヲ控除スルコトヲ得ルヤ

答 保險會社ヨリ職工ニ支拂フ保險金ハ工場法第十五條ニ依ル扶助金ニ非ス又民法上ノ損害賠償ニモ非サルヲ以テ扶助金額ヨリ右金額ヲ控除スルコトヲ得サルモノト認ム

四 工場法施行令第十九條ニ依リ工業主カ作成スヘキ扶助規則中ニ左記ノ意味ヲ規定スルモ差支ナキヤ

工業主ハ職工カ負傷シタルトキ之カ療養及扶助ヲ爲スカ爲ニ職工ヲ被保險者トシ自ラ保險契約者トナリテ保險料ヲ支拂ヒ保險會社ト傷害保險契約ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ被保險者タル職工カ負傷シ保險金額ノ支拂ヲ受ケタルトキハ工業主ハ其ノ職工又ハ遺族ニ支給スヘキ扶助金額ヨリ右保險金額ヲ控除スルコトヲ得

答 質問ノ如キ趣意ヲ扶助規則中ニ規定スルコトヲ得ス

五 工業主カ工場法ニ依リ職工ノ扶助ヲ爲スカ爲蒙ル損害(即チ扶助)ヲ填補セムカ爲之ヲ目的トシテ一般損害保險ノ如ク工業主自ラ被保險者トナリ職工ノ身體ニ普通傷害保險ノ團體契約ヲ爲シ團體員カ負傷シタルトキ工業主カ支拂ヒタル扶助金額ヲ限リ保險會社ヨリ保險金額ノ支拂ヲ受クル傷害保險契約ヲ爲スモ差支ナキヤ

答 質問ノ如キ保險契約ハ傷害保險契約ト認メ難シ

六 工場法施行前業務上ノ疾病ニ罹リ同法施行後引續キ工場ニ出勤シ居タル者ニ對シテモ工場法施行令第二章ノ扶助ヲ爲スヘキヤ

答 工場法施行前業務上ノ疾病ニ罹リタル者ニハ扶助ノ義務ナシ然レトモ工場法施行後未治癒ノ者ヲ引續キ使用セル場合ハ扶助ノ義務アリ

七 工場法施行令第六條ノ休業扶助料ハ工場ニ於テ休日ニハ賃金ヲ支給セサル定アル場合ニ於テハ療養中其ノ休日ニ相當スル分ニ限り之ヲ支給セサルモ可ナルヤ

答 休日ト雖支給スヘキモノトス

八 工場法施行規則第十四條ハ業務上ト否トニ拘ラス職工カ負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ遲滞ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘキ義務ヲ工業主ニ命シタルモノナルカ疾病負傷又ハ死亡カ業務上ニ起因スル場合ハ疑ナキモ若シ然ラサル場合ハ診斷又ハ檢案ニ要スル費用ハ職

工又ハ其ノ遺族ニ於テ負擔スヘキヤ

答 工場法施行規則第十四條ハ職工就業中又ハ工場及附屬建設物内ニ於テ負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘキ義務ヲ工業主ニ命シタルモノナルヲ以テ其ノ結果負傷疾病又ハ死亡カ業務上ニ起因スルト否トヲ問ハス診斷又ハ檢案ニ要シタル費用ハ工業主ノ負擔トス

第八 歸郷旅費

歸郷旅費
ノ意義

一 歸郷旅費ハ應募地ノ如何ヲ問ハス本人ノ必要トスル到着地迄ノ實費ヲ支給スル意義ナルヤ

答 歸郷旅費ハ應募地ノ如何ヲ問ハス本人ノ本籍地、父母、後見人、戸主其ノ他親族等ノ保護ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ者ノ居住所迄ノ實費額ヲ謂フ

二 職工カ同盟罷業ヲ爲シタル場合ニ工業主カ其ノ者ヲ解雇シタル場合ト雖工業主ノ都合ニ依リ解雇シタル者トシテ歸郷旅費ヲ支給スヘキヤ

答 同盟罷業ヲ爲シタル場合ハ歸郷旅費ヲ支給スルニ及ハス

第九 賃金ノ支拂、貯蓄金、違約金及損害賠償額

工業主ノ
都合ニ依
ル解雇

第八 歸郷旅費

第九 賃金ノ支拂、貯蓄金、違約金及損害賠償額ノ豫定

賃金支拂

ノ豫定

一 數箇月分又ハ數箇年分ノ賃金ヲ一時ニ前拂又ハ假拂スルコトヲ得ルヤ

答 工場法施行令第二十二條ハ工業主カ不當ニ賃金支拂義務ノ履行ヲ遷延スルコトヲ防クノ趣旨ナレハ賃金ノ前拂又ハ假拂ヲ爲スコトヲ妨グルモノニ非ス

二 毎月一回以上支拂フヘキ賃金ハ少クトモ一箇月分タルヲ要スルヤ二十五日又ハ二十七日分タルコトヲ得サルヤ尙毎月トアルハ曆ニ依ル月ヲ指スモノナリヤ

答 二回以上ノ支拂期日ヲ定メタルトキハ一月分ナルコトヲ要セサルハ勿論其ノ他支拂期日ノ變更期日前ノ支拂等正當ノ理由アルトキハ假令支拂ハ毎月一回ナリトスルモ其ノ金額ハ必スシモ一月分タルコトヲ要セス

毎月ノ月ハ曆ニ依ル

三 定額ヲ支給スヘキ職工出勤後業務ニ因ラサル疾病負傷其ノ他自己ノ都合ニ依リ中途早退ヲ爲セル場合ニ事實其ノ勤務セル時間割ニテ賃金ヲ支給スヘキ契約ヲ爲スハ差支ナキヤ

答 差支ナシ

四 職工ニ對シ賃金ノ支拂ヲ爲スニ當リ豫メ契約ニ基キ左記ノ金額ヲ控除スルコトヲ得ヘキヤ

(イ)食料

(ロ)家賃例ヘハ工業主ニ於テ職工ニ住宅ヲ貸與スル場合ニ於テ其ノ家賃

(ハ)米炭等ノ給與品代

(ニ)旅費支度金等ノ前貸金ノ月賦額

(ホ)職工カ他人ニ對シ金額ヲ支拂フヘキ場合其ノ他他人ニ對スル支拂ヲ工業主ニ委託シタルトキハ其ノ金額例ヘハ工業主カ職工ノ合宿料ヲ宿主ニ支拂フコトヲ委託セラレタル場合

答 賃金ノ支拂ニ關シ豫メ契約ヲ以テ定メタルトキハ掲記ノ場合ニ於テ賃金中ヨリ當該金額ヲ控除シテ支拂ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ニ付テハ工場法規ハ民法ノ規定以外ニ於テ何等別段ノ事項ヲ定メタルニ非ス

五 工業主カ職工ヲ簡易生命保險ニ加入セシメ其ノ保險證ヲ工業主ニ於テ保管シ賃金中ヨリ保險料金ヲ拂込ミ其ノ殘部ヲ職工ニ支拂フハ工場法施行令第二十二條ニ抵觸スルコトナキヤ若シ抵觸スルトセハ同令第二十四條但書ニ依リ許可スヘキモノナリヤ

答 四ノ答ニ依ルヘシ

六 工業主カ職工ニ郵便貯金ヲ爲サシメ其ノ通帳ヲ工業主ニ於テ保管シ賃金中ヨリ郵便貯金ヲ爲シ其ノ殘部ヲ職工ニ支拂フハ工場法施行令第二十四條但書及第二十五條ニ依リ許可及認可ヲ受クヘ

貯蓄金

キモノナリヤ

答 見解ノ通

七 積立金、信認金ハ多クノ場合ニ於テ之ヲ強制シ所謂賃金中ヨリ控除シテ積立テ工場法施行令第二十三條同法施行規則第二十條ノ場合ニノミ拂戻ヲ爲スカ如キ實例尠シトセス此等ハ總ヘテ貯金ト看做シ工場法施行令第二十四條第一號ニ依リ許可ヲ受ケシムヘキヤ

答 見解ノ通

八 職工ニ關スル制裁ノ一方法トシテ賃金ノ割引ヲ爲スハ差支ナキヤ

答 工場法施行令第二十四條ニ職工ノ雇入ニ關シ工業主ノ受クヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ストアルハ職工ノ雇傭關係其ノモノニ付規定シタルモノニシテ工業主カ不當ニ職工ノ雇傭關係ノ繼續ヲ強要セムトスルヲ防クノ趣意ニ外ナラサルヲ以テ斯ノ如キ場合ハ差支ナシ

九 工場法施行令第二十四條中工業主ノ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ストアルハ單ニ職工ヲ相手方トスル契約ノミヲ謂フモノナリヤ又ハ身元保證人ヲ相手方トスル場合ヲモ包含スルヤ

答 身元保證人ヲ相手方トスル場合ヲモ包含ス

損害賠償額ノ豫定

違約金

一〇 損害賠償額豫定ヲ爲スコトヲ得ストアルモ單ニ損害アルトキハ之ヲ賠償スヘキ旨ノ契約ハ差支ナキヤ

答 本條ニ依リ禁止セラル、ハ損害賠償ノ金額ヲ豫メ確定スル契約ニシテ現實ノ損害ヲ賠償スヘキ旨ノ契約ヲ禁止スル趣旨ニ非ス

第一〇 雜

一 工場ノ目的作業ニ關係アル作業(荷造、包裝、運搬、工場掃除)ヲ爲ス所謂補助職工ハ本職工ト異ナリ就業者ノ移動頗ル頻繁ナルカ苟モ職工ト認ムル以上ハ雇入解雇ノ事實アル毎ニ一々職工名簿ニ記載ヲ要スルヤ

答 見解ノ通

二 工場法施行規則様式第三號職工負傷疾病月報記載心得第二ニ本月報ニハ業務上ト否トヲ問ハス負傷又ハ疾病ノ爲引續キ三日又ハ其レ以上休業シタル者ニ限り記載スヘシトアリ夫レ以上休業シタル者トハ如何

答 三日又ハ夫レ以上トアルハ三日又ハ三日以上ノ意ナリ

三 警察署長ニ對シ諸種ノ經由願屆書類ノ調査ヲ爲スコトヲ命シタルヲ以テ該官ハ當該事項ニ對シ

職工名簿

負傷疾病月報

當該官吏

工場ニ臨檢シテ調査ヲ爲スカ如キ所謂工場法施行ノ任ニ當ル場合アリ此等ノ場合ニハ當該官吏トシテ工場法第二十一條ノ適用ヲ受クヘキヤ

答 警察署長ニ委任シタル場合ハ當該官吏ト認ム

戸籍證明

四 工場法第十六條ニ所謂職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ノ證明ニ關シテハ戸籍ニ記載シタル事項ニ付キ證明ヲ求ムル場合並戸籍法第六十七條ノ届出受理ノ證明書及届書類ニ記載シタル事項ニ付證明書ヲ請求セシ場合ハ無償受付スヘキモノニシテ戸籍法第十四條ノ戸籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ニ付テハ手数料ヲ徴收スヘキモノト解シ然ル可キヤ

答 市町村長カ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ證明ヲ與フルトキハ手数料ヲ徴スルコトヲ得サルモ届出受理ノ證明書又ハ戸籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ爲ス場合ニハ手数料ヲ徴スヘキモノトス

五 工場法第十六條中職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ云々トアルハ職工徒弟タムラトスル者自身ノミニ屬スル戸籍記載事項ヲ指スノ趣旨ナルヤ將タ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ハ勿論其ノ者ト同一戸籍内ニ在ル總テノ者ノ戸籍記載ニ關スル事項ヲモ包含スルヤ
答 後段見解ノ通

大正六年五月五日印刷
大正六年五月八日發行

(定價金貳拾五錢)

農商務省商工局編

東京市神田區表神保町三番地

工學書院

發行者 森 治 武 次 郎

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷者 阿 部 節 治

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷所 會 社 東 京 國 文 社

326
270

終